

令和4年度 第2回吹田市地域医療推進懇談会作業部会 議事要旨

1 開催日時

令和4年（2022年）12月22日（木）午後4時から午後6時まで

2 開催方法

オンライン会議

3 出席者

吹田市医師会 財田滋穂委員

おきしろ在宅クリニック 沖代奈央委員

社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会吹田病院 消化器内科 科長 光本保英委員

国立循環器病研究センター 特定行為研修管理室 室長 高田弥寿子委員

吹田市介護保険事業者連絡会 訪問看護部会 三輪真由美委員

吹田市介護保険事業者連絡会 訪問看護部会 玉井真由美委員

吹田市介護保険事業者連絡会居宅介護支援事業者部会 居宅部会実行委員 喜多記子委員

大阪大学大学院 医学系研究科保健学科専攻 教授 神出計委員

4 案件

(1) 私の思い 記入シートについて

(2) 活用の手引について

(3) その他

5 議事の概要 別紙のとおり

事務局 定刻になりましたので、令和4年度第2回吹田市地域医療推進懇談会作業部会を開催いたします。お忙しいところ、御参集いただきありがとうございます。
まず、本日の配付資料の確認をさせていただきたいと思います。

－資料の確認－

事務局 本作業部会は、吹田市地域医療推進懇談会の傍聴に関する事務取扱基準に基づき、傍聴可能としておりますが、本日は傍聴希望者はおられません。
また、本作業部会の内容につきましては、会議終了後ホームページでの公開を予定しておりますので、議事録作成のため、録音させていただきますことを御了承ください。
それでは、以降の進行につきましては、委員長にお願いしたいと思います。

委員長 それでは、次第に従いまして、案件に入りたいと思います。
前回の会議では、人生の最終段階について自分ごととして考える時期にある方を対象とした記入シートについて検討いただきました。今回の会議では、引き続き記入シートについての内容の精査と記入シートの手引（詳細版、簡易版）について話し合っていたきたいと思います。まずは、案件（1）私の思い記入シートについてお願いします。

事務局 ー【資料1】の説明ー

委員長 最初の資料1の1、2ページの意見をお伺いしたいと思いますが、「私の思い 記入シート」の名称、そして、キーとなっている「あなたにとって、大切なことはなんですか？」という文言、特に問題ないでしょうか。また、次のページに関してはいかがですか。

委員 「はじめに」の1行目と3行目に「もしもの時」という文言が2回繰り返されています。強調し過ぎると本人は「もしもの時なのだ」と構えてしまうと思います。例えば1行目の「もしもの時」を「どんなときでも」と変更するのはいかがでしょうか。

委員 人生会議には「もしもの時」以外にも自分はどんな治療を受けたいのかきちんと話しておくことも含まれるので、1行目の「もしもの時」をなくしてもよいと思います。

委員長 では、1行目の「もしもの時」の文言を削除して、3行目の「もしもの時」を残す文面にします。

3行目に70%という数字を出していますが、何か定義づけはされているのでしょうか。

事務局 人生会議の国のリーフレットに「命の危険が迫った状態になると、約70%の方が、

医療やケアなどを自分で決めたり、望みを人に伝えたりすることができなくなると言われています。」と表現されています。

委員長 2ページの下「3つの大切なポイント」で意見はありますか。「記載した日付も記載しましょう」とはどんな意味合いですか。

事務局 記入シート記入後に日付を入れていただくことを想定しています。また、手引にも明記しています。

委員 2ページの「人生会議をしていたら」のところに、「残された大切な人にとって」の「残された」という文言は本人が亡くなってしまう意味合いとなってしまうので、これは、削除したほうがよいと思います。

委員長 「残された」となると、亡くなることが前提であると捉えられてしまう可能性があります。「残された」を外して、「大切な人にとって」とするのはどうですか。

委員 例えば、「何が本人にとっての最善なのかを」など考えるときの目的語になるような文言が入ってもよいと思います。

委員 例えば、「あなたの大切な人があなたのことを考えるときの大きな助けになる」はいかがでしょうか。

委員長 「今後について考えるときの大きな助けになる」というのはどうでしょうか。
他に意見はないようですので、「今後について考えるときの大きな助けになる」と文言を修正します。

委員長 では、3ページに移ります。意見はございますか。

委員 「大切な人に思いを伝えること」という選択肢がありますが、自分の思いを伝えたい人が存在しない人もいるのではないのでしょうか。素直に自分の思いを伝えられる人がいることが大切だと思う人もいると思うので、内容を追加するのはどうでしょうか。

委員長 この意見についていかがでしょうか。

委員 選択肢を一つ追加するということでしょうか。何か具体的なイメージはありますか。

委員 本当は誰かに相談や伝えたいことがあるのに、相手がいないということに困っている人もいないかと思ひ、その内容を入れてほしいと考えています。

委員長 この項目は自分にとって大切なことはどれかチェックするので、大切な人に思いを伝えることはしたくないという人はチェックしないということになります。相手がない人についてもチェックしない項目となります。そうすると、「大切な人に思いを伝えること」にチェックしている人は大切な人がいることになります。

委員 本当は相談相手がほしいのにいないということは、言い出しにくいのではないかと思います。「自分の思いを伝える人がいること」にチェックする方に対して、距離を縮めていく必要があると考えました。

また、思いを伝える相手がいた場合に、大切な思いを伝えること自体ができなくなったときを考えて項目を追加したほうがよいと思います。

委員長 では、選択肢としては「大切な人に思いを伝えること」の項目を残したうえで、「自分の思いを素直に伝えられる相手がいること」という項目を追加するか、もしくは、「大切な人に思いを伝えること」を「思いを伝える大切な人がいること」に変更するのかのどちらかだと思いますが、どうでしょうか。

委員 「大切な人に思いを伝えること」は一つの項目としてよいと思いますし、「思いを伝えられる相手がいること」も項目を一つとして追加したらよいと思います。

委員長 では、「自分の思いを素直に伝えられる相手がいること」という項目を追加します。それでは、次のページの質問2、3に移ります。意見はございますか。意見がないようですので、次のページに進みます。まずは、質問4、5に関して意見はございますか。意見がないようですので、次に進みます。

委員長 質問6～9に関しては、健康上に問題のある方で、場合によっては今後の見通しが悪い方も含めての質問になってくると思います。この「健康上の問題がある方」という表現、どうでしょうか。質問7については、健康な方でも将来何か問題が出たときにどこまで説明を求めるのかについては必要と思います。現段階では元気であっても命にかかわる病気の場合に病状を知りたくない人もいると思います。いかかでしょうか。

委員 質問6、7について、健康上の問題がある方と限定しなくてもよいかと思います。

委員 高血圧や糖尿病のみの疾患で病院に通院している方であれば、どう扱うのでしょうか。基礎疾患がある方こそ、元気であっても心筋梗塞や脳卒中など命の危険を伴う疾患を急に引き起こす可能性があります。健康上の問題がある方という文言を削除した

ほうがよいと思います。

事務局 記入シートについては、主に人生の最終段階を「自分ごと」として考える時期にある方をイメージして作成はしていますが、元気な方でも使っていただけるような仕立てにしており、次に説明する手引にも示しています。「もしもの時」を想定して考えていただくような、いわゆる人生会議の練習にもなるものでもあります。

委員 医療・介護従事者から対象を選別して活用するものなのか、診療所内など誰にでも手に取れる場所に置いてあって、自分から自発的に活用するものなのか、どれを想定しているのでしょうか。

事務局 この媒体は基本的には医療・介護従事者を通じて説明のもと渡されることを想定して作成しています。最初の導入や質問6以降の部分については、できれば医療従事者に同席してほしいというような内容も手引に記載しています。

委員 医療・介護従事者を通じて渡すシートならば、対象が決まっているので、「健康上の問題がある方」という文言はなしでよいかと思います。また、元気な人が回答しても、急に何か起きたときという意味で使用できます。

委員長 では、6ページの上にある「健康上の問題がある方」という文言は削除します。

委員 質問7で命に関わるような病状や、今後の見通しに関して、聞きたくないという人もいるので、明確な内容にしたほうがよいと思います。

委員長 「健康上の問題がある方」という文言がないと、質問7の「現在の病状や今後の見通しについて」という言葉が浮いている感じがします。「今後大きな病気が見つかって、主治医から説明を受ける際に何か希望ありますか」のような質問に変えてしまったほうがよいのでしょうか。

委員 「現在の病状や今後の見通し」のところで、例えば括弧して「予後を含む」「余命を含む」など命に関わる内容が文言として表れるような表現にするのはいかがでしょうか。

委員長 命に関わる大きな病気が見つかったときに全て詳しく知りたいのか、家族だけに説明してほしいのかということを周りの人が知っておきたい質問だと思います。質問7については、予後が悪い病気と言われたときの質問とするほうがよいのではないかと思います。極端な文言にはなりますが、例えば「予後1年と言われたとき、病状や今後の見通しの説明に対して希望ありますか」としたほうが良いかと思いますが、どう

でしょうか。

委員　むしろ、命に関わる病気と限定せず、質問6、7も現在の体の状態を聞いてもよいかと思えます。糖尿病などの病気でも、聞きたくない人もいますし、6ページの下イラストの吹き出しではそのことを補足してくれています。また、質問8は体の状態が悪くなった時を想定して、記入してもらいますので、質問6、7に関してはどんな方にでも、今の状態と今後の見通しについての質問するほうがよいではないかと思えました。

委員長　意見が分かれましたが、いかがでしょうか。

委員　とても大事な質問だと思います。質問7については、命に関わるような重い病状のときのことについて聞きたいです。そうでないと、急性期の疾患で本人が意思決定できないときに役立つ項目にはならないように思います。

委員　質問6では、現在の体の状態や今後の見通しについて聞き、7ページ目の最初にある「もしも急な病気やケガ等によって…」の文言を質問7の前に入れ込んでもよいのではないのでしょうか。

委員長　質問7は医療・介護従事者が共有したい情報だとは思っているので、踏み込んで質問したほうがよいのか。例えば、質問7を急なけがや病気によって、自分の思いを伝えられなくなったときを想定した質問として、質問7～9を聞く流れでよいのでしょうか。

委員　伝えられなくなったときという表現は意思疎通できないイメージになってしまうので、「命に関わる病気になったとき」などの文言ほうがよいのではないのでしょうか。

委員長　確かに、質問7～9は治る見込みがない病気と診断されたときを想定した質問です。

委員　ただ、がんでも本当に治らないかどうかというのは分からない部分もあり、治らない可能性も含めて早期の段階で説明されることが望ましいとは思いますが、最初に治らないと言ってしまふ断定的過ぎると思います。

委員　先程の意見のように糖尿病などでもあまり聞きたくない方もいると思うので、そういった希望を聞くことも大事だと思います。質問8の上に、もう一つ質問を追加してもよいと思います。ですが、10問で納めるという方針だったと思います。

委員長　質問7に関してどういう疾患を想定するかが一つの検討事項となってきましたが、いかがですか。

委員 良性の慢性疾患であれば、知りたくないという選択肢はなかなか尊重されにくいですが、命に関わる疾患においては、知りたくないということも尊重されると思うので、例えば「命に関わるような疾患になった場合」などの注釈をつけるのはどうですか。

事務局 事務局としましては、命に関わる病気になったときを想定して答えていただくのはどうかと思いますが、いかがでしょうか。

委員 思いを伝えられる間に考えるきっかけになるリーフレットだと思います。また、糖尿病や高血圧などの基礎疾患から急変が起こる可能性が高い、そういう年代の人に「自分ごと」として捉えてほしい内容だと思うので、命に関わる病気になったときを想定した質問でよいと思います。

委員長 質問7に関して、様々な意見がありましたが、「もし命に関わるような疾患と診断された場合、主治医から説明を受ける際、何か希望はありますか」という質問とします。
現場では、DCM（拡張型心筋症）やDT（長期在宅補助人工心肺治療）の人でもこのような話を説明していますか。

委員 基本的に予後告知のときに知らされない権利、知りたくない権利というのが尊重されると思うので、人生の最終段階になったときに予後告知に対して本人がどういう希望があるかというところにフォーカスしたほうがよいと思います。重篤な病気にかかった場合に限定したほうが、人生会議のパンフレットにおいては患者教育にもなると思います。

委員長 本人も家族と同じように全て知りたい方ばかりではないということでしょうか。

委員 病状の予後については知りたくないから、大まかな現状だけ知りたいという方もいますので、病気が進行していて、ある程度余命が短くなってきている人に関して、本人がどこまで知りたいのかを医療者側は大変気にするところです。フォーカスを当てていただいたほうが急性期の医療の現場では活用しやすいと思いました。

委員 質問6だけ現在の状態ということになっているので、いらないと思うのですが、いかがでしょうか。

委員 既に現状の認識がずれている方もいますし、説明が適切な時期に行われていないということがこの項目で確認できます。高齢の方では、がんの末期であっても、がんであることを説明していないケースも少なくないです。意外とこのような内容は聞けなかったりするので、当たり前の質問ですが、必要だと思います。

委員 このリーフレットを渡す人は終末期の状態の人を想定されていないには思います。糖尿病や高血圧などまだ命に関わらない人たちが書くリーフレットだと思うので、質問6はいらないと思います。

委員 在宅医療の現場のなかで、高齢者の方は病気なのに認識がない方がたくさんいます。そういう方に少しシリアスな話をすると、驚いて落胆されることが多いです。自分がどう病気を捉えるかについて、医療・介護従事者はこのような機会に知りたいと思います。普段の診療のなかで、なかなか「あなたは病気についてどう思っていますか」とは聞けないですが、自分で記入するのであれば、書いてくれることもあると思いますので、残したほうがよいように思います。

委員長 質問6については、病気について理解している人は書く方もいると思いますし、自由欄になっているので、白紙のまま記入しない方もいると思います。記入していた場合には、家族の人が主治医に見せて、話のきっかけにもなります。

次に質問8、9ですが、「急な病気やけが等によって」の「急な病気」の文言について、進行性のがんなど急でない病気もあるので、いらないかもしれません。重い病気やけがなどによって、自身の希望が伝えられなくなった場合のときを想定した質問ですので、「重篤な」や「重い」という文言を追加したほうがよいと思います。何か意見はありますか。

委員 質問8で、「これ以上の治療は難しい」という表現ですが、緩和ケアは最後まで緩和治療を行いますので、「治療が難しい」という表現はおかしいと思います。

委員長 具体的な文言はありますか。

委員 「治療が望めないと医師が判断した場合」はいかかでしょうか。

委員 よいと思います。あるいは「これ以上の積極的治療は難しい」という積極的という言葉を入れてもいいかもしれません。

委員長 「治療が望めない」のほうが簡易でよい表現だと思いますので、「治療の望めないと判断した場合」とします。では、質問9はいかがでしょうか。

委員 病院の場合、家の場合、施設の場合にどうなるのかのイメージがついてない方が多いと思います。表現を、例えば「できる限り家族と一緒に過ごしたい」「傷みを軽減することを優先したい」「24時間安心できる専門家が診てくれるような場所がよい」など選択する理由が分かるような質問を並べておいて、その希望が叶えられるよう考えていくほうがよいかと思いました。

委員長 質問9については、理由を話し合うことが重要となります。これから説明する手引のなかには「症状が比較的緩やかなうちは自宅で、苦痛が多くなれば施設や病院に行きたい」「自宅を選んだが、家族への負担が大きくなってきたので、施設に切り替えたい」「基本は自宅療養で、家族が外出や息抜きしたいときにはショートステイで施設に」などいろいろな選択肢を医療・介護従事者が説明しながら意見を汲み取る内容となっていますが、他に意見はございますか。

委員 状況によって療養場所が変わる場合もあり、委員の皆さんが言うように何でそう思うのかが重要です。どこを選ぶかというよりも、理由を話し合うきっかけになるというのがこの質問の意図だと思います。

委員長 では、質問9はそのままの表現でいきます。次に最後のページの質問10とその下の文言はいかかでしょうか。

特に意見はないようですので、そのままの表現でいきます。

続きまして、案件（2）活用の手引について、事務局よりお願いします。

事務局 — 【資料2-1、2-2】の説明—

委員長 対象や目的が大事になってくると思うのですが、意見はございますか。
日付を記入する時はどのように書くのですか。

事務局 自由記載欄のところだけにはなってしまいますが、いつ記入したのかを記入した最後に分かるように書いていただけたらと思っています。自由記載欄以外の部分についてはどのようにするまで検討できていないところです。

委員長 2冊目、3冊目があってもいいと思うので、記入シートに記載できる枠を作るのはどうでしょうか。

事務局 前回の会議で最後のページに欄を作るという案や消さずに追記して書いていくという意見もあり、悩んでいるところです。

委員 欄がなければ書かない可能性が高いと思います。記録したのがいつの時期かという情報が医療・介護従事者にとっては大事だと思うので、日付を書いてもらう工夫が必要だと思います。

事務局 最後のページに最初に書いた日付、それから追記した場合は追記した項目のそばに日付も書いていただくようなイメージはいかかでしょうか。

- 委員長 よいと思います。他に意見はありませんか。
- 委員 名前を書く欄がないと思いますが、いかがでしょうか。
- 事務局 前回の会議で意見をいただいておりますが、追加できていませんでしたので、表紙か最後のページに名前の記入欄を作らせていただきます。
- 委員長 簡易版の手引については、詳細版を印刷して配布するのは難しいので、基本的に各事業所には、記入シートと簡易版を配布して、QRコードで詳細版を確認する流れとなっていると説明がありましたが、他に意見はございますか。
- 委員 記入シートを持参していただけるよう、例えば「お薬手帳などに入れてもらったら、急に何か起こったときに自分の思いが伝わります」などの文言を入れてもらってもよいと思います。
- 事務局 手引だけでなく、記入シートにも入れたほうがよいでしょうか。
- 委員 文言を入れておかなければ、書いた人は持参する発想に行きつかない場合もあるので、裏面に記載したほうがよいと思います。
- 事務局 では、裏面に記載します。
- 委員長 他に意見ありませんか。
- 委員 簡易版の手引ですが、文字が多くて、見づらい感じがします。特に2枚目のところのレイアウトを工夫していただけたらと思いました。
- 事務局 文字量についても検討し、見栄えよく仕立てていきたいと思っております。
- 委員長 今後の予定はどうなりますか。
- 事務局 事務局にて修正し、出来上がりましたら、2月に開催する地域医療推進懇談会で報告をさせていただく予定です。そこでの意見集約し、3月ぐらいの完成を目指していきたいと考えております。来年度以降、医療・介護従事者の方向けに媒体を送付する予定です。媒体の周知方法として、人生会議をテーマとした医療・介護従事者向け説明会の開催を考えております。媒体の修正ができましたら、委員の皆様にご共有させていただきます。

委員長

修正後の媒体を委員皆様に確認いただき、意見を吸い上げて仕上げてください。
各分野にて最前線で活躍されている委員皆様の非常に有意義な意見交換ができたと思います。ありがとうございました。それでは、本日の作業部会は終了させていただきます。

以上